



◆生育状況については果樹総合情報を参照

◆当面する重点作業について

1. 春季干ばつ対応として、晴天が続くようであれば、定期的なかん水により結実を助ける。
2. 訪花昆虫だけに頼らず、安定した人工受粉を励行し、結実を安定させる。共同開葯所を積極的に利活用する。
3. 凍霜害防止対策を万全に取り組む。この時期は、急に寒の戻りがあるので要注意する。

《プルーン・すもも》

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期: 開花始め(花が1～2輪咲き始めたら散布) 散布日 月 日

2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
機能性展着剤アプローチBI	100ml	—	—
ロブラール水和剤	66g	灰星病・灰色かび病	前日

3. 散 布 量: 10a当り=350ℓ以上

4. 留意事項

- ①アブラムシ発生が心配される場合は、ウララDF4,000 倍(水 100ℓ 当り25g)を加用散布する。
- ②主幹にヤニが出て胴枯症状が出ていたら削り取り、塗布剤のトップジンMペーストを塗る。

◆プルーンの人工受粉実施について

トレジディ・グランドプライズ・くらしまは、特に実止まりが悪いので必ず人工受粉を行う。

プルーンの交雑和合性 (記号: ◎=最良 ○=良好 △=やや良好 ×=不良 —=不明・試験中)

※下記表を参考に、交雑和合性が良く、その年の開花時期が合うもので行う。

〔開花時期 ※年により差がある。早い ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 遅い〕

受粉樹(品種) 交配が 必要もしくは、 した方が良い品種	シ ユ ガ ー	く ら し ま	オ ー タ ム キ ュ ー ト	ト レ ジ ディ	プ レ ジ デ ン ト	サ マ ー キ ュ ー ト	ア ー リ ー リ バ ー	ベ イ ラ ー	く ら し ま 早 生	サ ン タ ス	グ ラ ン ド プ ラ イ ズ	ス タ ン レ イ
くらしま	○	×	○	○	—	○	×	○	△	—	×	○
オータムキュート	△	◎	×	○	○	○	—	△	—	—	—	—
トレジディ	○	◎	○	×	○	—	○	△	○	—	△	—
プレジデント	◎	—	—	◎	×	—	◎	△	—	—	○	◎
サマーキュート	◎	◎	—	△	◎	○	—	△	◎	◎	—	—
ベイラー	◎	—	—	◎	○	—	◎	×	—	—	○	○
くらしま早生	○	○	—	○	—	—	○	×	×	—	△	—
サンタス	◎	—	—	—	◎	—	○	×	○	△	—	—
グランドプライズ	○	△	—	○	△	—	◎	△	○	—	×	○

◆すももの人工交配実施について(交配が必要なため必ず実施する)

すももの交配 (記号:◎=最良 ○=やや良 △=結実低い ×=結実なし ―=不明)

受粉樹 果実	早 大 生 石	ロー ザ サン タ	ソ ル ダ ム	太 陽	ぜん り よう 紅	ト ント ハ ー エ レ フ ア	ッ ド ハ リ ウ
大石早生	×	◎	◎	◎	―	―	◎
サンタローザ	○	△	◎	◎	―	―	◎
ソルダム	◎	◎	×	◎	―	―	◎
太陽	×	○	×	×	×	○	○
紅りょうぜん	○	◎	○	×	×	―	◎
貴陽	×	×	×	×	×	△	△
秋姫	○	―	×	○	―	―	◎
シナノパール	―	―	×	○	―	―	○

《あんず》

◆第3回薬剤散布について

1. 散布時期: 80%落花時 散布日 月 日
2. 調 合 量: 水100ℓ当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
固着性展着剤アビオンE	66ml	―	―
アンビルフロアブル	100ml	うどんこ病・灰星病	7日
ウ ラ ラ D F	25g	アブラムシ類	7日
マイコシールド	66g	かいよう病	14日

3. 散 布 量: 10a当り=400ℓ以上
4. 留意事項
- ① 前回散布との間隔は12日以内を厳守し、花ビラが80%以上落ちたら早めに実施する。生育が平坦部と山手では3～5日のずれがあるので、自園の状況を見て適期に行う。
- ② 花腐れの発生原因の一つに、散布間隔の空き過ぎと散布量不足がある。開花初めの散布からは12日以内にし、散布量は400ℓ以上散布する。特に信州大実には、樹上部までかけムラのないよう注意。
- ③ 昨年、かいよう病の発生が見られなかった園は、マイコシールドに代えてトレノックスフロアブル 500 倍(水 100ℓ 当り 200ml)を使用してもよい。
- ④ カイガラムシ類発生園は、アプロードフロアブル 1,000 倍(水 100ℓ 当り 100ml)を加用散布する。
- ⑤ アビオンEに代えて、固着性展着剤K. Kステッカー3,000 倍(水 100ℓ 当り 33ml)を使用してもよい。ただし、最後に調合する。又は、普通展着剤 10,000 倍(水 100ℓ 当り 10ml)を使用してもよい。

《うめ》

◆かいよう病対策の特別薬剤散布について

1. 散布時期: 展葉初期(80%落花期) 散布日 月 日

2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	1 0mℓ	—	—
マイコシールド	6 6 g	かいよう病	21 日

3. 散 布 量: 10a当り400ℓ

4. 注意事項

①昨年かいよう病が発生した場合は必ず散布する。

《な し》

◆芽たたき・摘蕾の実施について

1. 目的・効果

貯蔵養分の無駄な消耗を防ぎ、大玉生産につながるよう実施する。摘果作業の省力にも役立つので必須。

2. 落とす蕾

- 1) 主枝・亜主枝・側枝の先端部のえき芽花はすべて摘蕾する。
- 2) 短果枝着生のために誘引した2年枝のえき芽花もすべて摘蕾する。
- 3) ラ・フランスは2～4番花を中心に成らすので番花の遅い花を摘蕾する。

◆第2回薬剤散布について

1. 散布時期: 開花前 散布日 月 日

2. 調 合 量: 水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展 着 剤	1 0mℓ	—	—
サムコルフロアブル	2 0mℓ	シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日
トレノックスフロアブル	2 0 0mℓ	黒星病・黒斑病・赤星病	30 日

3. 散 布 量: 10a当り＝棚栽培300ℓ／立木栽培350ℓ

4. 留意事項

- ①アブラムシの発生が心配される場合は、ウララDF4,000 倍(水 100ℓ 当り 25g)を加用散布する。
- ②赤星病は雨が多いと感染が多くなるので、開花前後とその後の防除間隔が空かないようにする。
植木で「ビヤクシン」があると感染しやすい。1km位は感染範囲となるので注意する。

◆人工受粉・毛バタキ交配の実施について

1. 結実確保と大玉生産を目的に必ず実施する。(交配する花粉を多めに用意する。)
2. 日本なしの場合、ヤーリー・松島・豊水が利用できる。(3～4番花を中心に受粉する。)
3. 南水は3～4番花を中心にラ・フランスは2～4番花を中心に受粉する。
4. 西洋ナシの場合、自家不和合のため自分の花粉では実止まりが悪い。(他の花粉が必要)
5. ラ・フランスには和なし(幸水・豊水・二十世紀)やシルバーベルを、その他の品種はラ・フランスの花粉を採集して実施する。開花の順序を見ると基部から開花してきて2～4番目にあたる果実が肥大も良く果形がよいので、2～4番花をねらって受粉を行う。
6. 試行技術の溶液受粉については、果樹営農技術員までご相談ください。

◆第2回薬剤散布について

2.調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
展着剤	10ml	—	—
パスワード顆粒水和剤	100g	灰星病・幼果菌核病	前日

4. 注意事項

①カイガラムシ類発生園は、アプロードフロアブル 1,000 倍(水 100ℓ当り 100mℓ)を加用散布する。

◆人工受粉の実施について

主力の佐藤錦は、実止まりが悪いので必ず受粉を行う。

表1.佐藤錦の交雑和合性 (記号:○印=良好 ×印=悪い)

受粉樹(品種)	紅秀峰	高 砂	ナポレオン	香夏錦	佐藤錦	正光錦
佐 藤 錦	○	○	○	○	×	○